

<第三種郵便物認可>

地下鉄パイパイ菌

大阪市交通局 25年度全車両に

つり革、座席など消臭・抗菌

「清潔な地下鉄」を目指します

大阪市交通局が、市営地下鉄とニュートラムの全車両計1360両の消臭・抗菌対策を進めている。すでに御堂筋線で使用される全410両に対策を終えたほか、今年度中にニュートラムの80両にも実施。平成25年度中に全車両での完了を目指す。同交通局は「消臭や抗菌に対する世間の意識が高まるなか、多くの人が利用する地下鉄にも導入することにした」と話している。

御堂筋線の各車両には、手すりやつり革、壁面、座席など、人の接触が考えられる部分を中心に特殊な触媒を散布。手すりに雑菌などがついた場合、触媒の作用で分解され、菌の働きなどを妨げる仕

組みだ。

同局によると、これまで、虫除けなどのため定期的に消毒を実施していたが、一時的な効果にとどまっていた。さらに近年、新型コロナウイルスの登場などで抗菌グッズが注目されるなど利用者らの意識も高まるなか、不特定多数が乗降する地下鉄にも消臭・抗菌対策が必要と判断した。

10月から順次、御堂筋線車両の抗菌対策を進め、今月16日に全410両への導入を終了。同線では現在、ほとんどのダイヤで抗菌車両が運行中だ。

これまでの消毒に比べ、1回あたりの経費は7～8倍と割高だが、「消毒は毎年実施していたが、業者の説明では「触媒作用

は、10年くらいは維持される」といい、経費の差は大きくならないのでは。効果を確認しながら進めたい」と(同局)とし、今後も消臭・抗菌車両の運行を続けていくという。



触媒を散布して進められる地下鉄車両の消臭・抗菌化
(大阪市交通局提供)